

委員会視察報告

委員会視察報告

各常任・特別委員会及び議会運営委員会では、他団体等における先進的な取り組み内容を調査研究することを目的に、先進団体の行政視察を行っています。平成 22 年に行った委員会の視察を報告します。

委員会視察

REPORT



企画総務委員会
報告者 企画総務委員長 山崎 英昭
参加委員数 9人

鳥取県境港市 「地域資源の活用手法と全国ブランド化」について

平成元年より緑と文化のまちづくりを検討していく中で、境港市出身の水木しげる氏が描くマンガに登場する妖怪オブジェを配置したロードの構想が...



アニメのキャラクターにあふれたまちづくり

日程・視察先
4月19日 鳥取県境港市
4月20日 鳥根県松江市

ント・絵タイルを歩道に設置し、親しみのある快適な道として整備した。市民の方に出歩いていたことを考えていたが、テレビなどでも取り上げられ、全国から観光客が多く訪れる名所となった。

平成 16 年、観光協会を中心とする「妖怪ブロンズ像設置委員会」により、全国からスポンサーを募りブロンズ像を 100 体にする取り組みを実施したところ、全国から予想を上回る応募があり、35 体を追加設置した。

水木しげるロード関連の活性化事業として、テレビ・新聞・

雑誌などマスコミへの積極的な情報提供など観光PR事業の強化、妖怪ガイドマップを利用したスタンプラリーの実施、レンタサイクル事業などを実施。

また、「水木しげるロード」関連事業の集大成として、平成 15 年に水木しげる記念館を開設した。

こうした取り組みもあり、昨年の観光客は年間 150 万人に達した。

今後の西東京市の活性化に参考にしていきたい。

島根県松江市 「松江オープンソースラボ（松江市開発交流プラザ）・広聴機能の充実」について

松江市では、市民の声・市長への手紙・メール等の個別広聴のほか、積極広聴として、だんだん市長室・まちかどトーク・市長と語るまちづくりを実施している。

(満 1 歳以上)、小学生入院医療費の無料化(所得制限なし)、父子家庭の医療費無料化(所得税非課税の父子)等を行っている。

山形県酒田市 「酒田市高齢者虐待防止協議会」について

酒田市は、人口約 11 万 3 千人で、酒田港を中心とした都市である。

高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律の施行により、平成 19 年に「酒田市高齢者虐待防止協議会」が設置された。

西東京市では、過去に法律に基づく立入調査を行使する事案があったこともあり、その取り組み状況の把握を目的に視察を実施した。

酒田市の協議会では、



松江市の視察の様子

また、平成 21 年 6 月より、「何いませ係」を設置し、市民からの意見、要望等に対して、積極的に出かけて直接話し、解決を図ることとした。

松江市では平成 18 年に松江オープンソースラボ(松江市開発交流プラザ)を開設し、オープンソースサロンを開始。行政、大学、IT 業界が連携して、松江市出身のまつもとゆきひろ氏が開発したプログラミング言語 Ruby を活用した地域産業振興に取り組んでいる。

高齢者の「見守り」に力を入れており、社会福祉協議会を中心とした「草の根ネットワーク」をつくり、地域の高齢者問題に対応している。

また、酒田市では高齢者虐待に関する相談、連絡等の受け皿として、独自に「介護相談員」を置き、対応をしている。市の調査では、息子による虐待が多く、その要因としては、介護負担や経済的なものとのことであった。



酒田市の視察の様子

建設環境委員会
報告者 建設環境委員長 小幡 勝己
参加委員数 9人

高知県南国市 「地域資源の活用方法と地域振興」について

～やなせたかしロードとごめん生姜地蔵建立事業等

商店街の空き店舗率が増え、店舗が住居となっているケースも多く、シャッター化が進んできた。地域活性化のための自治体活動団体の育成に関する条例制定をし、みずからの発想と行動により地域をよくするように組織の結成を促し、「ごめん町づくり委員会」が結成された。後免町商店街を「やなせたかしロード」と命名し、漫画家のやなせたかし先生がデザインした、

日程・視察先
5月11日 高知県南国市
5月12日 高知県高知市

生産全国 1 位の生姜をキャラクターにした「ごめん生姜地蔵」やアンパンマンなどの石像を設置した。さらに道路を歩行者天国にして、「地産地消ごめん軽トラ市」を開催し、地元産



南国市のアンパンマンの石像

の野菜や果物などを販売した。ゆず商品、枇杷(びわ)の種でのリキュールづくり、トマトだけ

駅周辺再開発等特別委員会
報告者 駅周辺再開発等特別委員長 新井 五郎
参加委員数 10人

大阪府大阪市

大阪市では、三国駅周辺地区土地区画整理事業、淡路駅周辺地区土地区画整理事業、阪急電鉄京都線・千里線連続立体交差事業の 3 整理事業等について視察を行った。基本コンセプトを「創造とやすらぎのあるまちづくりー都市とともに憩い潤うまちー」と、公共施設用地を買収することなく土地の所有者などから少しずつ土地を提供してもらい「土地の交換分合」という手法によって、施行地区内の道路や公園等の公共施設と宅地を一体的・総合的に整備する方法である。「淡路駅周辺地区土地区画整理事業」と「阪急電鉄京都線・千里線連続立体交差事業」は、阪急電鉄京都線・千里線連続立体交差事業に合わせ、淡路駅周辺の交通の円滑化と安全で快適な歩行者空間の確保、並びに防災性の



現在の淡路駅周辺の様子

のカレー、ごめんしょうがあめ、ごめんしょうがせんべいなどいろいろ試みており、シャモ鍋では全国のお国自慢鍋が味を競う埼玉大会で優勝した。

このように、ごめんブランド化等さまざまなアイデアを出して、まちおこし、商店、地域産業の活性化に挑戦している。地域活性化のために知恵を出し合い、住みやすい元気の出るまちづくりを考える上で、地域資源の活用方法と地域振興について大いに参考になった。

高知県高知市 「土佐から始まる環境民権運動推進協定」について

高知市地球温暖化対策地域推進計画は、次世代の子どもたちによりよい地球環境を引き継ぐことを目的に、量販店、市民団体、高知市が協定を締結し推進していく。量販店は、ごみ発生抑制の 8

項目の取り組みを実施する。①レジ袋の削減②容器包装の削減③再生可能なプラスチック類等の自主回収・リサイクルの推進④環境・リサイクルを考慮した商品の積極的な販売⑤ごみの減量、分別及びリサイクルの実施⑥従業員への環境教育や啓発活動⑦地産地消の推進⑧資源循環型社会の形成に向けた事業活動



高知市の視察の様子

市民団体は、環境に優しい消費行動をし、高知市は、成果を広報するなど啓発に取り組む。地球温暖化対策地域推進計画に取り組む上で、事業者等の環境民権運動を参考にしたい。

向上、健全な市街地としての整備を図るため駅前広場、幹線道路、公園等の公共施設整備改善と駅前街区における土地の高度利用の促進と周辺部における良好な住宅地としての整備を図ることを目的としている。事業期間は、平成 32 年完成を目指し、淡路駅前線・幅員 16m・阪急付属街路淡路駅前線・幅員 6m。駅前広場約 4,800㎡の整備で、公園を 2 つつくり、あわせて阪急京都線と千里線連続立体交差事業を行うものである。平成 9 年に用地買収に着手したが、除却踏切が 17 力所を数えるなど気が遠くなる計画である。

大阪府豊中市

豊中市「野田地区まちづくり」は、「第 3 次庄内地域住環境整備計画」として立ち上げ、安全・安心のまちづくりが進行中で、現在、一部完成を見た。地域で不足している公共・公益

施設の整備や、住環境の改善に取り組み、防災指標を目標に策定①防災性の向上、②庄内駅周辺整備など適宜その事業効果や達成度についての検証を行い③少子・高齢化への対応④居住者が主体となるまちづくり活動への転換を図る。



整備された野田地区の視察

両市とも災害に強い街づくりを目指していた。

この特別委員会は、今回の視察を大きな力にかえ、一層、協力し合い、市民の皆さんに喜んでいただける委員会として精進していきたい。

山形県 東根市 「さくらんぼタントクルセンター」について

東根市は、人口約 4 万 6 千人で、日本一の生産量を誇る「さくらんぼ」をはじめとした「果樹王国」である。

東根市は、自治体として平成 20 年第 3 回「につけい子育て



さくらんぼタントクルセンター(東根市)

で支援大賞(日本経済新聞社主催)」を受賞し、市の子育て支援策が評価されたものである。「さくらんぼタントクルセンター」は、その施策の中心施設として、平成 17 年 4 月に開設された市の代表的施設である。

この「さくらんぼタントクルセンター」は、大型遊具のある東北屈指の室内遊戯施設であり、開館からわずか 3 年で入館者数が 100 万人を超えた人気施設である。

市では、平成 20 年度から「子育て応援 5 つ星」として、妊婦健診費用助成の拡大、未就学児の医療費無料、休日保育の実施